



# かもめ広場だより VOL.11

2020年3月発行  
一般社団法人横須賀市医師会  
在宅医療推進連携拠点「かもめ広場」  
〒238-0005 神奈川県横須賀市新港町1-11  
☎ 046-824-6430

今回は、横須賀市医師会で実施している事業について、実際に活用している先生に感想を伺いました。皆さまも是非ご活用ください。

## 在宅医療・介護連携ノート「よこすかリンクパスポート」

かもめ広場では、在宅患者さんの意向に沿った適切な医療・介護を提供するための情報共有ツール「よこすかリンクパスポート」を作成し、かかりつけ医が患者さんに発行し、医療介護関係多職種をはじめ、緊急時に対応する救急隊や警察にも周知しています。

### 「よこすかリンクパスポート」の活用の実際について

フロムワン附属診療所 院長 佐藤 真紀子 先生

- リンクパスポートの発行時期について  
訪問診療を開始してできるだけ早い時期に発行します。  
キーパーソンになるご家族としっかりコミュニケーションが取れた時期が良いと考えます。
- 発行するときの説明  
入院支援登録システムの説明をし、登録病院の希望を聞きながら、保険証、検査結果、お薬手帳など全ての情報をリンクパスポートにまとめておき、入院時には、このまま持っていきよう話します。
- こんな時に役に立ちました・こんな効果がありました  
紹介状がすぐに書けない状況で救急搬送となった時に、ご家族がリンクパスポートを持って患者さんに付き添いました。病名、検査結果、処方内容、退院に向けてのケアマネジャーさんの情報などを、患者さんと同時に病院にお届けすることが出来ました。
- 連携する多職種にお願い  
冷蔵庫等に「持ってます」シールが貼ってあったら、黄色いファイルを探して下さい。できればそれに必要事項を記入、記入が面倒ならファイルに名刺を挟むだけでもOKですのでお願いします。



(持ってますシール)

## 「在宅患者入院支援登録システム」

在宅患者入院支援登録システムは、在宅医療を受けている患者さんが、急な病状悪化、あるいは検査や治療のための入院が必要になったときに、入院を容易にし、より安定した在宅療養の継続を可能にすることを目的とするシステムです。

### 在宅療養者の急な入院の際にも安心できるシステムについて

小磯診療所 院長 磯崎 哲男 先生

横須賀市医師会では在宅療養中で在宅医療をうけている方の安心のために、在宅患者入院支援登録システムを運用しています。これは、状態が悪化した場合に備えておけるので、具合が悪くなった時のスムーズな入院、医療連携に効果のあるシステムです。先んじて患者さんの医療情報を病院に送っておくので、急な入院の際にも安心できるシステムです。今後はこのシステムのように患者さんの医療情報を市内医療機関でいつでも閲覧できるようにしておけば安心安全につながると思います。患者さんの医療介護情報の要旨を一元管理できるシステムを横須賀市と医師会で模索しております。

# 市民公開講座から・・・「赤ひげ先生に聞く今どきの在宅医療」

在宅医療を地域社会に根差して展開した先駆者として日本医師会の「赤ひげ大賞」を受賞した二人の「赤ひげ先生」を講師に迎え、11月16日(土)に市民公開講座を開催しました。

硬軟入り混ぜてわかりやすい語り口で「在宅医療の今までとこれから」について講演し、対談「忘れられない在宅医療エピソード」では豊富な経験から深く考えさせられるもの、心が温まるエピソードなどが提供されました。

質問コーナーでは受講者から多くの質問があり、丁寧で時にはユーモアを交えた説明がなされ、市民の在宅医療への理解と関心の深まりが期待できる講座でした。



## 街角在宅医療講座受講者アンケートから見るかかりつけ医の状況 ～在宅医療の認知等に関する調査(平成30年度)から～

### 1. はじめに

超高齢社会における在宅医療を考えると、地域に根差したかかりつけ医の存在は極めて重要とされている。

かかりつけ医は、単に病気の診療をするだけでなく、地域の保健や福祉を担う総合的な能力を有する医師であり、その必要性が高まっている。

その一方で、市民がかかりつけ医を持つことの意義に関する意識醸成が課題になっている。

街角在宅医療講座受講者を対象としたアンケート調査のなかのかかりつけ医に関する項目から得た結果を報告する。

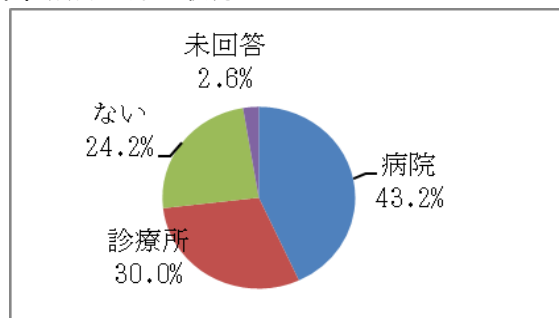
街角在宅医療講座の受講状況(平成30年度)

実施回数(回)	受講者数(人)	アンケート回収数
5	238	190

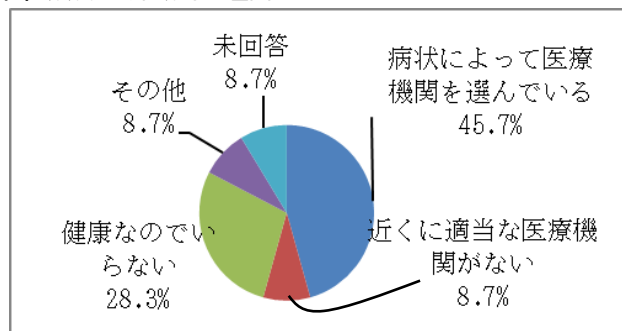
受講者の平均年齢は73.7歳 男性が3割 女性が7割であった。

### 2. 調査結果

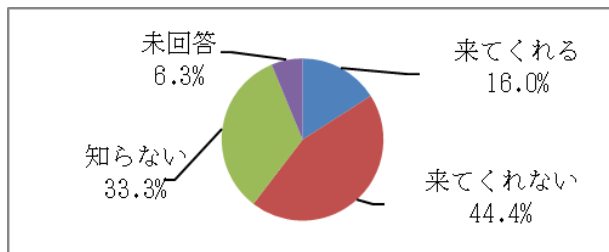
#### (1) かかりつけ医の状況



#### (2) かかりつけ医がない理由



#### (3) かかりつけ医の往診(訪問診療)の可能性



### 3. まとめ

(1) 受講者の73.2%は、かかりつけ医をもっていた。

診療所のかかりつけ医が30.0%、病院のかかりつけ医が43.2%で、病院にかかりつけ医を持つ人が診療所を上回っていた。

日医総研の調査によると、かかりつけ医がいるは55.9%で当調査の方がかかりつけ医を持つ人が多かった。また、「かかりつけ医がいる割合は高齢になるほど高くなり、70歳以上では81.6%を占めた」<sup>※1</sup>となっており、本調査では70歳以上でかかりつけ医がいる割合は100%であった。

(2) かかりつけ医のない人は24.2%であった。

かかりつけ医を持たない理由は「病状によって医療機関を選んでいる」が45.7%で、ホームドクター、ファミリードクターを持つことへの関心が高い人たちがいると思われる。

(3) かかりつけ医の往診の可能性については、

「来てくれる」が16.0%、「来てくれない」44.4%、「知らない」が33.3%となっており、往診の可能性をかかりつけ医に確認できていない人が相当数いることが分かった。

「高齢になり要介護状態になっても、安心して地域で療養できるような地域包括ケアシステムの構築」には、かかりつけ医が在宅医として果たす機能が求められており、より多くの市民が要介護状態になる前からかかりつけ医を持つことが療養の安心につながると考える。また、「かかりつけ医を持つ人は、健康増進をより多く実践し、医療への満足度も高い」<sup>※1</sup>とされており、市民がかかりつけ医を持てるよう、積極的な情報提供と意識啓発が求められている。

引用文献

※1 第6回日本の医療に関する意識調査(平成29年)

日本医師会総合政策研究機構